

このように、保育者の幼児理解や保育理解はそこでの対話の場に拘束されている。保育者は直観的にその場がやさしくする場であり、園長の指導が適切であったことを了解する。そしてそれを比喩性の高い言語、主観的な印象として記述するのである。もちろん、この記述を非科学的であるときめつけて排斥すべきではない。しかし、ここでの反省をさらに深める場合には、保育者のこうした印象を追求すべき課題として一般に認識される形に翻訳しなおさなければならぬ。つまり、弱虫であるひであきのパーソナリティは具体的にはどういうものであったか、運動能力はどうか、またその日の行動はどうであったなど、一般にどういう条件のときに幼児にやさしくすることができるのか、どうすればとり違えないですむのか、これらの問いに答えるにはひであき

についても、その時の状況についてもっと具体的客観的データがほしいのである。それに加えて、状況を一般論として考察するためには、抽象度の高いつまり虚構性の高い概念が必要なのである。たとえば、パーソナリティ傾向と賞罰等の刺激条件との関係についてというようにである。それはこの状況をこえて、理論的に問題を考えるということである。研究者の課題は保育者が保育の場でとらえた問題をより一般性の高い問題として考えるようにいざなうことであるとともに、直観的な場の理解を反省する手がかりとすることなのである。

※完※ (東京学芸大学)

※

※

## 行事の報告

◆昨年の十月、運動会や遠足の行事で忙しい先生方に、各園の工夫を凝らした行事の内容を報告していただきました。行事との取り組み方は、各園の保育のありようを写し出す鏡でもあるようです。

### 行事の実施の実際と

#### 今後の考え方

大山 晴子

東京・中央区立昭和幼稚園

#### ①行事の内容と方法について

私の勤務園は、小学校と併設であり、園長は小学校長の兼任であること、都心にあり児童・園児数が極めて少ないことなどの実態から、運動会、学芸会、展覧会などの

大きな行事は小学校と合同で行なっています。幼小合同で行なう行事では、発達段階にどう応ずるかが課題となりますが、小学校児童の演技や表現あるいは作品などを見たり聞いたりすることが、幼児の経験や活動の幅を広げるよい刺激となると受けとめ、プラスの面を生かすとり組みを心がけています。

実施に当っては、幼稚園児の立場から無理のないように内容や方法、時間を検討し、十分教育効果がかかるように留意し、小学校とも綿密に連絡をとりあいます。

また、それらの行事で、幼稚園が独自に経験を再現したり発展させたりしたいと考える場合は、日を変えて幼稚園のみで場を設定して実施しています。できるだけ年長児を中心にした幼児の自発的な活動を重んじ、下手でも幼児自身にまかせせる部分を多

く作るようにしています。

入園式、修了式、各学期の始・終業式は、生活に区切りを与え、成長への自覚や喜びを味わわせる行事ということで、楽しくなごやかな雰囲気の中にも、けじめのついた規律のある参加の仕方を促すようにしています。

しかし本来の目的から、あくまでも園児主体に考え、園児の発想や意見をできるだけとり入れる形で計画し、実際の場で、子どもが子どもの自然のことはで発言するなどの場を多く組み入れるようにしています。

その他、誕生会、発表を含んだ子ども会など、友だち同志の交流を深めたり、互いの表現を見せ合い発表力を高めたりする活動は、教育活動に支障のないよう、父母の参観は最少限度に絞ります。

園児の自然の姿を尊重するということで、練習は過度にならぬように戒め、ひとりひとりの子どものどの部分に新しい進歩や努力が見られたかに目を向けるようにしています。

ひとつひとつの行事は計画を立てる時と同様に、終わったあとの反省を綿密に行ない、うまくいかなかった点、効果の上った点を記録に残し、次回に生かすよう努めています。

## ②行事実施上のくふうについて

(遠足を例に)

私の園で特に力を入れているのは遠足です。都心で自然にも、遊び場にも恵まれな地域の実態から、できるだけ戸外に連れ出す機会を多く作っています。区のスカーパスが年二回配当される他は、貸切バスを使ったり、交通費の負担を軽くするため

## 行事の報告

に国電や地下鉄利用を進めたり徒歩でゆける公園に出かけたりします。徒歩遠足では足を鍛え、心を鍛えるだけでなく交通安全の実地指導の成果も上げるように配慮しています。

ただ戸外に連れて行き楽しく遊ばせるというのではなく、ねらいをはっきり設定します。

従って事前の目的地の下見に力を入れ、どこで何をどのように体験させるかを教師間でよく話し合い、事前の指導に位置づけ、遠足への興味や意欲を高めます。たとえば、虫とり遠足では、それぞれの年齢に合わせて、牛乳パックやティッシュペーパーのあき箱を利用して虫カゴを作らせ、当日携帯させます。

また、いも掘りの遠足では、いもは土の中でどのようになっているか、教師が幾つ

かの絵を示してあてっこさせ、当日しっかりと見てこようという意識を促します。

このように目的意識をはっきり持たせることにより、子どもたちの自然物を見たり、聞いたり触れたりくらべたりする姿勢が積極的になってきました。

戸外活動の目的は、自然の姿に触れさせることにありますので、季節の移り変わりを具体的に分らせるために、同一の場所を季節を変えて少なくとも年二回は出かけるように留意しています。

### ③行事への今後のとり組み

年間計画を立てる段階で、昨年の行事を慣例としてとり上げ、月に割当ててしまうことが多く、まだまだひとつひとつの行事の見直しが必要です。この行事で子どもたちに何が育つかを問い、残していくもの、切り捨てるもの、回数をふやす（へらす）

もの、時期を遅らせた方がいいもの、方法を変えた方がいいもの（全体とする。学年別にする）など、さまざまな角度からの検討が必要だと思えます。また、子どもたちを主体にして考えた行事でも展開していく過程で、いつの間にか行事に教師も子どもも追いつけられている場合が少なくありません。たとえば、子どもの能力以上のものを期待して、教師が手をかける部分が多くなったり、興味のない子どもを叱咤激励してとり組ませねばならなかったりします。

出来ばえや父母の目を意識した行事のとり組みでなく、子どもが行事で体得するものの方を大切に考えたいと改めて心に言いかせています。そのためには、父母会などの行事を生かして幼児の発達と指導のあり方について正しい理解を促す働きかけが必要だと思えます。

行事を園生活に無理なく結びつけて教育的価値の高い総合的な経験の場となるように指導をくふうしていききたいと考えています。

◇ ◇ ◇

岩本 典子

東京・武蔵野相愛幼稚園

(入園式)

入園する子供達とおうちの方々を新年長児と教師とで迎え入れる形をとっています。式は二十分程度のもので、年長組のお兄さん、お姉さんに手をつないでもらったり、歌を歌ったり、先生とお話したりして帰ります。おいのりを初めて経験するのもこの日です。

生まれて始めて多勢の集団に足を踏み入れる幼な児一人一人に、幼稚園を好きになつて欲しい、幼稚園で自分を思い切り出せ

る人になって欲しい、という願いをこめて、教師はその準備に、又当日の言葉がけに気を配るよう心がけています。

新年長組は二日程前から通園し、新しい小さな友達の入園を気恥ずかしさと誇りが混じり合った心境で待っているようです。ホールのボール道を飾ったりしながら、迎え入れる心構えができてくるかのように見えますが、自分達が、「憧れの白バツジ(年長組)」になった喜びは非常に強く式の日も興奮気味です。

「入園式は厳格にすべし」との外からの声も強く、入園式とは如何なるものか、教師間でも再検討すると共に、その日七十四名余りの子供達一人一人の心の内に流れた思いをこれから始まる保育の中で大切に育てていきたいと思うのです。

(遠足・園外保育)

遠足は春に一回、秋に一回あります。春はおうちの方と御一緒に広い野原に集まります。特別なプログラムは用意せず、木のぼり、鬼ごっこ、陣とり、縄とび、散策などをそれぞれに親子で存分楽しみます。

広々とした場所、ゆつたりとした時間の中でお母様方に多に自分から遊びを見つけて出して欲しいという願いもこめられています。遊ぶ子供、遊ぶお母さん、遊ぶ教師になれたら嬉しいと思います。

秋は園児達だけの歩き遠足です。片道約四十分歩くと善福寺公園があります。小高い山でズボンを実黒にしながら山滑りを楽しみ、ビニール袋いっぱい木の実や色づいた葉を集めたりして一日を過ごします。

又、井の頭公園が近いものですから(入口まで徒歩約十五分)子供達のその日の様子を見ては出かけます。二時間ある遊びの

時間の中で、行きたい子供達と出かけることもありますし、クラスでお弁当を持って奥地まで探検に行くこともあります。風を作った子供達は自家製の風をかかえて意気揚々と飛ばしに行きます。雪の降った翌朝は合戦場にもなります。「園外保育」という言葉にとらわれずに気がるに子供の健康状態、保育の状態と相談して出かけられることは大変幸せなことです。

四季それぞれ、又天候によっても味わい方が異なり子供達が持ち帰るお土産も様々です。それらがクリスマス飾りになりました。おなべでゆでられて皆のお腹に入ったり、時には翌日から遊びの仲間に加えられるりしています。

これからも出かける子供達、留守を守る子供達（といっても彼らは広々とした園舎で、思わぬ遊びを繰り広げていきます）と

を無差別に分けてみたり、クラス毎、或いは男女別に分けてみながら、いろいろな経験の中で生まれ育ってくるものを楽しみに待とうと思います。

年長組は年三回、公園をつき抜けた程の所にある教会まで礼拝をしに行くのも大きな喜びの一つです。入園当初は皆の歩調についていくことのむずかしかった障害をもつ子供達も「家から幼稚園まで歩く」という毎日の繰り返しの中で、（お母様の努力、協力も含む）人一倍疲れることも少なくなつてきているようです。

（運動会 プレイデーと呼んでいます。）

年に二回行ないます。一回は、隣の小学校のグラウンドをお借りして日曜日にお父様も御一緒に競技を楽しみます。競技といってもその場で楽しめるものばかりで、つな引き、かけっこ、玉入れ、おうちの人の

おんぶ競走程度のものです。その日の為に練習は一切ありませんが、年長組になると遊びの中で、「プレイデーの練習ごっこしようよ」と言い出す子供もいてリレーやつな引きをしてはその日を待ち望んでいます。

もう一回は秋に行なわれます。春の遠足で行った公園に集合して、道具を使わずに自然の中を走り、跳び、転がります。グルーブを作って地図を見ながらの宝さがしや風船わり、又お昼の休憩を一時間たっぷりとするなどしてプログラムが過密にならないよう心がけます。

（卒園式）

卒園する園児と御父兄が幼稚園にみえます。形式は毎年担任の教師が中心となつて考えますが、今までは礼拝・修了証授与の後に園児と御父兄と一緒に楽しめる時を設

けました。三学期は月日も短かいうえに、卒園児の組は何やかやと忙しくよほど保育者が心していないと慌しく時が過ぎていきます。私達の願いは、幼稚園生活残る日々をゆったりとした環境の中で、存分に遊び切つて卒園していつて欲しいということですが、二年間の総決算としてもそれが一番必要であり、又私共が子供達一人一人にしてあげられる最後の保育だと信じています。

◇ ◇ ◇

折原 祥子

神奈川・松ヶ丘幼児園

### 入園式

始めての集まりに、どうしても緊張しますので、式というより顔合わせのような形で行ないます。三十五名程の人数ですの  
で、後にお母様、前に子供が丸く座りま  
す。

話をする先生は、ぬいぐるみの動物の指人形で話しかけ、子供達と会話しながら進めて行きます。先生の紹介、子供達の知っている歌を歌います。そのまま、各先生が動物の人形を持ち、簡単に劇をします。

動物なのでとても集中して聞いているようです。内容は、「明日から元気にいらっ  
しゃい」という様なものです。

最後に一人ずつ名前を呼んで、園児の作  
った首かざりをプレゼントして帰ります。

約四十分で終ります。

### 遠足

春と秋、年二回行きます。

春は、入園した子供達が園生活に慣れて  
来る頃、六月上旬に、母親も参加して、自  
然の中に出掛けます。目的は、自然の中  
のびのび遊ぶこと。又母親の親睦をかねて  
います。

場所は、歩いて行かれる所が良いのです  
が、あいにく適当な所がないので、やむを  
えずバスを使っていますが、いつも、もっ  
と近い所で良い所は……と考えています。  
現在はこどもの国(約四十分)と葉山の  
海岸(約一時間二十分)に一年交替に行っ  
ています。

こどもの国では、草や木の自然、又牛な  
どの動物、おもしろい遊具で、葉山では、  
海の豊かな自然の中で存分遊んで来ます。

全員で八十五名位ですので入口で開散し  
なくても一緒に行動出来ます。

秋は毎年、多摩動物園に園児とお手伝い  
のお母様数名で行きます。バスで約一時間  
二十分子供達の身近な動物に触れ、年齢に  
合った、とらえ方をして来る様です。園内  
では、クラス別にコースを考え、昼食は一  
緒にします。

### 行事の報告

## 運動会

十月上旬に、親子で親しめる運動会を致します。プログラムは、その年の子供が興味を持って遊んで来たものの中から考えて作ります。親子でする競技、リレー、ダンス等盛り沢山ですが、午前中で終ります。

親子で参加する競技もあり、又年長児は係等も交替で行ない、皆で力を合わせて行う楽しさを知ります。終りに、園長先生手作りのメダルをいただいで帰るのが習慣になっています。

## 学芸会

特にしていません。ただし、クリスマスマスの祝会の時、各クラスで何かまとめたものを発表します。劇、合奏、人形劇、紙芝居、ペープサート等、保育の流れの中から自然に出て来る様配慮しますが、年長は、自分達で作りに出して行く様しむけていま

す。

皆の前で発表する事も大切な事だと、感じさせられます。

## 園外保育

歩いて十五分位の所に、大きな古いお寺があるので散歩に出掛けます。広いグラウンドと裏山を走り回ったり、木の枝や葉、実で遊びます。秋にはどんぐり、ぎんなん、落葉が沢山あります。

おいもほり、梨狩りも近くで散歩がてら出来ますので、秋は盛り沢山になります。

又、年長のみ三月上旬に、バス、電車のりついで江の島に行きます。水族館、マリナランド、海獣動物園を見学し、海で遊んで来ます。

## 卒園式

全園児で祝います。緊張した雰囲気ではなく、楽しい中にも落ついた場になる様心が

けています。手作りのコサージュをつけた卒園生は、一人ずつ園長先生より証書をいただき、握手をしてもどります。園で楽しかった思い出を、年少児と交互に呼びかけ、又歌を歌って終ります。

それぞれの行事が、園側で一方的に計画されたものでなく、子供と一緒に作り出して行く様考えています。

一つ一つの行事に、手作りの暖かさと、出来るだけ手を加えています。

たとえば、誕生会には、先生手作りの和紙で貼り絵をした動くカードをプレゼントします。毎月異なったものが飛び出たり、動いたりするので楽しみにしています。又自分達もカードを作る時、動く様に工夫しているのを見るとおもしろいなと思えます。

行事を経験する事は、とても大切な事だ

と思います。日本古来のものに触れたり、

又友達と一緒に一つの事を成しとげる事

は、とても意義のある事と思います。それ

をした時の子供も喜びが大きい様です。

又一つ一つ経験して行く事により、ひと

回りずつ成長していく様にも思います。

ただ、子供の成長の流れに合わせて計画

して行く事が大切で、こちらで計画したも

のに子供を合わせて行くのでは、意味がな

いと思います。

子供の生活の流れにとけ込んだ、終った

後で楽しい良い行事で有意義だったと感じ

る事と思います。

毎日の保育の中にとけ込んだもので、皆

で楽しめる行事にして行きたいと思ってい

ます。

◇ ◇ ◇

早川 美代子

愛知・豊田市立東丘幼稚園

本園の行事のとりあげ方の基本的な方針

は、行事のために生活するのではなく、生

活のために行事を行ない、それが幼児の思

い出となり、成長の足がかりとする。実施

する行事は、大きくわけて、保護者との連

けいの場、四歳・五歳の交流の場、親子の

ふれあいの場となる行事などである。

### 入園式

入園願書の受付の際、幼児と面接をし

て感じた事、地区別を考慮して、組分けを

してから一日入園を実施する。時期は、三

月上旬、場所は、入園したら、自分の部屋

になる保育室で行なう。入園式にはすでに

組も、下駄箱もわかっているのので、安心して入園式に参加できる。

### 入園式の日程

九・三〇—九・五〇 受付、組の前の

テラスで名札と出席ノートを先生から

受けとる。

一〇・〇〇—一〇・二〇 入園式。外

で、親子手をつないで組旗の前に並ん

で参加

一〇・三〇

一一・〇〇

写真撮影

降園

### 遠足

春は、バスに乗って、東山動物園、秋は

歩いて近くの弘法山へ行く。(徒歩三十分)

ねらい(秋の遠足)

。横断歩道を正しく渡る。歩道を歩く。

。虫とり、木の実などをひろって秋の自然

に親しませる。

。五歳と四歳と手をつないで歩いていく。

## 行事の報告



日程

九・〇〇 用便、持ち物の整理

九・二〇 集合 園長話

九・三〇 出発

一〇・一〇 現地着

一一・二〇 弁当を食べる。

一三・三〇 園到着

## 運動会

ねらい

。友だちと一緒に運動をする楽しさを感じさせる。

。友だちと力を合わせて競技やリズムをすることにやってみんなでやりとげたという満足感を味わわせる。

日程

八・三〇——一二・〇〇

準備

。ほとんど前日に、子どもと一緒に準備しておく。

。保護者席は、自由で、各自で席を用意。

。各種目の準備は、職員で行なって片づけ

は五歳児の子どもがする。できないものは、先生が手伝う。

は、先生が手伝う。

内容

## 四歳

かけっこ(直線)・競技

リズム遊戯・親子ダンス

## 五歳

クラス対抗リレー(トラック使用)

競技(親子)・親子ダンス・マスゲーム(男) 遊戯(女)

ム(男) 遊戯(女)

## こいのぼり運動会

入園して一カ月過ぎて、四歳・五歳の交流の場として、五歳中心に、行なう。

流の場として、五歳中心に、行なう。

四歳・五歳と手をつないでフォークダンス

スをしたり、玉いれをする。五歳がするのを、四歳が見学したりなどする。運動会後、「ちまき」をたべる。運動場は、手づくりのこいのぼりを立てる。

。入園式

。入園式

。入園式

。入園式

。親子で手をつないで、子どもに安心感を持たせる。

。入園式前

。入園式前

。入園式前

。入園式前

。入園式前

。入園式前

。入園式前

。入園式前

。入園式前

。入園式前

。入園式前

く、各組で行なっている保育を合同で、外で実施

・こいのぼりを作る事によって「こいのぼり運動会」をする意欲をかめる。

◇ ◇ ◇

## 園の行事に関する報告

良知 三恵子

神奈川県・横浜学園附属元町幼稚園

### ◎入園式

園のホールが狭いため、入園式は、新入園児及びその家族で行なっています。内容は、園長・母の会々長の挨拶、年長児代表の子どもの歓迎の言葉と歌、担任及び職員紹介、手あそびなどで、全部で三〇分位の式です。式のあとクラス別に写真撮影をします。入園式の方法は伝統的なものであ

り、これからこうしたいというような考えは特にありません。

### ◎遠足(春・秋)

春は近くの森林公園(競馬場跡に芝生や様々な木々、草花を植えた緑の公園)に遠足に行きます。春の自然の中で親子が楽しむ、というねらいのもとに、フォークダンスをしたり、親子ゲームをしたり、野原でころげまわったり、虫を採ったり、お弁当を食べたりして、一日を過ごします。動物園見学とか遊園地で遊ぶことなどは、各家庭でいつでもできることです。私たちの園では、たくさんの方が集まらなければ味わうことができない楽しみ方をしようと、心がけています。これからも、春の自然の中で思いきり楽しめるようなゲーム内容などを考えて、より充実させていきたいと思っています。

秋はおいも掘りです。観光バス四台で、

園児と職員及び世話役の母親二十名程で出かけます。このいも掘り遠足も、秋の自然を満喫できるように心がけてプランをたてています。芋畑の近くの神社でお弁当を食べたり、虫採りをしたりしたあと、赤黒くてやわらかい土をごはんしゃもじで掘って、赤いおいもをみつけます。畑が狭い関係で、子どもたちだけで行なっていますが、参加したいという母親の声が多いので、これから考えていきたいと思っています。

### ◎運動会

今年も、「当日、親子で楽しむ」という大きなねらいのもとに、プログラムを組みました。その内容は同封のプログラムの通りです(プログラムは省略・編集部註)。午前中は、子どもが精一杯遊び、午後は、親子でフォークダンスをしたり、親たちが、か

## 行事の報告

けっこ・つなひき・クラス対抗リレーなどに参加して、思いきり体を動かします。

三年程までは、子どもが毎日練習を重ねないといけないような、見栄えのよい内容が盛りこまれていました。その頃、親の満足は得られたのですが、子どもの生活は、運動会練習のため、かなり束縛されていました。そこで職員全体で話し合い、二年前から「子どもの生活のリズムをくずさないで、なおかつ親の理解を得られる運動会にしよう」という考えを土台として、内容を吟味しました。

さらに今年は、子ども側の立場をより重視し、子どもの遊びの生活に対する大きな刺激の一つとして、新しい運動的な経験をするチャンスとして、運動会を考えようと話し合い、その考えに基いて内容を検討しました。又、運動会が子どもにとってどの

ような意味を持つのか、ステップになるにしても、どのようなステップになるのか、よくわからないので、運動会前後を通じての子どもの様子を観察し、それを明らかにしていくということを、教師の課題としました。一方、親への保育内容の伝達の手段として、運動会の具体的な子どもの活動を例にとって説明したプリントをあらかじめ配っておきました。又、当日、種目によって、子どもの成長の様子を放送しました。

今後は、今年度の反省事項及び観察結果などを土台として、より望ましい運動会にしていきたいと思っています。

#### ◎作品展

毎日の保育の中で作ったものを、ホールに集めて展示し、一日目は親の観覧日、二日目は、子どもが広いスペースの中で思い

きり遊べる日としています。作品展の主旨は二つあります。ひとつは、親に保育内容を理解してもらおうということです。昨年は、作品の見方をプリントして親に渡し、会場内にも製作活動を通しての子どもの成長の様子を書いて掲示しました。しかし、完成した作品のみの展示だったので、理解を深めてもらうには、今ひとつアピールする力が弱かったようでした。そこで今年度は、子どもの成長の様子をよりわかりやすく示し、親の保育に対する理解を深めたいと思っています。その手段として、作品のできる過程の写真を示す、年少児の作品を写真で示し、その下に年長児の作品を展示するなどのことを考えています。そして、製作活動の中で子どもが、どんな面を伸ばしているのか、一年間の経験の違いがどういうものなのかなどを、親へ伝えたいと思

っています。

作品展の主旨のもうひとつは、子どもに、大きなスペースを利用して、ダイナミックな製作に取り組むチャンスを与えるということだと思います。この作品展をひとつの刺激として、製作活動をより充実させてほしいと願っています。

### ◎園外保育

私の園では、園庭が、コンクリートと人工芝ですので、できるだけ機会をとらえて、園外に子ども連れ出すような心がけています。さいわい、周囲にはいろいろな公園があり、すべて歩いていくことができます。(港の見える丘公園・山下公園・元町公園・麦田公園など)どんぐり拾いをしたり、葉っぱ拾いをしたり、カサカサと音のする枯葉のじゅうたんの上で鬼ごっこをしたり、船をながめながらお弁当を食べたり

します。これからも、園外にたびたび出かけ、園では味わうことのできない楽しさを、十分に味わわせてやりたいと思っています。

### ◎生活発表会(学芸会)

毎年二月の終りに、全園児が参加して、生活発表会という名前で行ないます。年少、年長共に、担任の教師が、子どもの状態を見て、ダンス・舞踊劇・創作劇・楽器演奏などのテーマを、子どもと共に決めます。これらのテーマは、長い時間をかけて、子どもの生活の中に無理なくおろすように心がけていますが、元町幼稚園の伝統としての生活発表会が、かなり見る側にポイントをおいた大々的な発表会のため、見る側の期待が大きく、発表会間近になると、練習を重ねている状態です。当日は園

にある様々な衣装を身につけ、自分たちで作った小道具などを使って、舞台上で発表します。発表会が終わった後も、ダンス・劇などの遊びが続いていくことから見て、子どもたちは、この活動を楽しんでいるようです。今後、子どもの活動の刺激のひとつとして、又、新しい音楽リズム的な経験をするチャンスとして楽しめる内容を吟味し、一步一步、生活発表会という名にふさわしいものにしていきたいと思っています。

### ◎卒園式

同封の式次第の通りに行なっています(式次第は省略・編集部註)。当日、子どもたちは修了証書をひとりひとり園長先生の手から受け取り、握手をします。又、思い出のアルバムという歌の歌詞を、その年の卒業生の印象深かったことがらの内容に変えて

歌います。今後は、幼稚園のしめくくりとして、子どもたちがさらに大きくはばたいていく出発点として、よりふさわしい式にしていきたいと思っています。

◇ ◇ ◇

## ミニミニ運動会

小林 暉親

千葉・八千代市親子相談室  
一つの大きな行事が終ってホットするの  
は、皆同じであろう。しかし、行事は楽しい  
ものである。子供達の生き生きとした顔、  
父兄の笑い声、そして職員のはりきった  
振舞い……実にいいものである。特に運動  
会などはその代表であろう。

今年はまだ自分の園以外に八箇所も  
の運動会を見学する事ができた。幼稚園が

二箇所、保育園が四箇所、幼児教室が二箇  
所である。これらの園は、私がいる親子教  
室（発達に障害のある子供達のための母子  
通園施設で、0～5歳までの三十名定員の  
施設である）の園児の卒園先や、現在併行  
保育をしている園であり、それぞれ招待し  
て下さったものである。

八箇所の運動会を見学して気の付いた事  
は、幼稚園・保育園・幼児教室とそれぞれ  
特徴があるな——という事であった。それ  
はまず第一に、私立幼稚園の場合、営利が  
目的という事も半分あるが、三群の中で見  
ている一番華やかでショー的要素がふんだ  
んにあり、父兄達もそれを喜んでおり、私  
なども、実に子供達をよくここまで指導  
（訓練？）したなという感じがしたのであ  
る。それに比べ保育園の運動会は、平日に  
行なったという事で父兄の参加も少なく、

にぎやかさには欠けるが、幼稚園児に比  
べ、子供達がのびのびと、自分達の運動会  
だ」という雰囲気であった。又幼児教  
室の場合は、諸設備・会場等のハンディの  
中で、父兄達の自主運営という点を生か  
し、三群の中で一番、親・子・職員が一体  
となつて、マイペースの運動会を楽しんで  
いた。

さて、わが親子教室のミニミニ運動会で  
あるが（園児数が少ないのでミニミニとし  
た）幸い雨による順延という事もなく、十  
月の下旬の平日に、楽しく行なう事ができ  
た。

親子教室の運動会の最大の特徴は、一  
に、勝ち負けにこだわらず、全く子供達の  
ペースで進行させる事、又運動会の中心は  
子供だけではなく親子であり、プログラムの  
半分は親向けである事（何故なら、親子

教室のケースとは、発達に障害のある子供だけをさすのではなく、その子供をかかえた家族を常に単位一ケースとして考えており、時には子供より、悩みの淵にある親へのケアを重視するからである）があげられる。

次に主催者は誰かという事であるが、これが親子教室ですとはいえないのである。何故かという点、一応親子教室の職員は、兼務園長一名、指導員一名、パート職員四名というわけであるが、とてもこれだけの人数では障害児の運動会はできない。そのためいつも関係機関のケースワーカーや言語治療士や保健婦さん達が応援にかけつけてくれ、受付けをしたり、カメラマンになったり、決勝テープ係になったり、子守りをしてくれたりと、皆手伝って（手伝わされて？）くれるのである。このチームワー

クがあつて初めて大きな行事ができるのである（合宿でもクリスマス会でも皆で応援してくれる）。もし皆が自分の仕事の領分だけしっかり守っていてくれたら？ とても親子教室は行事など考えないであろう。いつも感謝している。そんな意味で「主催者は」というと、親子教室応援団？ といえるかもしれない。

又、今年の運動会の最大の成果は、普段時々交流保育をしている幼稚園の五歳児クラス（三十名）が、プログラム後半から参加し雰囲気在大いにもりあげてくれた事である。障害児だけの、特に低年齢児の多い（二歳前後が主）親子教室の場合、子供も楽しめるもの、運動会らしいにぎやかさや華やかさは、最初からあきらめていたのであるが、健康な生命力に満ち満ちている子供達

の参加によって、運動会の雰囲気が一気に盛り上がり、教室の子供達もつられて大いに頑張ったのである。普段、言葉の少ない、個人遊びが主で、集団性の乏しい保育に慣れすぎてしまっている者達にとって、実に素晴らしい刺激であった。改めて、正常とは何か、健康とは何か、生命力とは何かを感じさせてくれたのである。又親達にとっても、楽しかったという思い出と共に、健康な子供達のたくましさ、にぎやかさ、力強さと、それらと共存しうる集団規律をみて、大いに得る所があったようである。

◇ ◇ ◇

## 行事の報告

## 運動会

水野 恭子

新潟・上越市立たんぼぼ園

心身障害児母子通園の施設であるたんぼぼ園での運動会を紹介したいと思います。

園には実にいろいろな個性を持つ子がおります。坐位がようやくとれるだけとか、

ひどい癩癩もちとか、痙攣発作が頻繁だとか、多動だとか、鈍重だとかに加え、DQ

が30〜50という知恵遅れが伴う子がほとんどなのです。ですから、種目等の内容を決めていくにあたって、十分な話し合いがも

たれました。そして、

1、母親が夢中になりすぎないように。あくまで子どものペースで参加すること。

2、ハンディに関係なく、同じ条件でできる種目もいれること。

3、母子関係を深めるのに役立つこと。

の三点を基準に計画を立てました。日時は10月9日10・15より。時間については、子どもを指示的に動かせるのはせいぜい一時間

間と思いましたが、実際には中途に十分の休憩をいれて一時間半弱となってしまう

した。種目のうちのいくつかを取り上げてもみます。

1、「入場行進」これについては、毎日、お帰りの集まりの時に行進しますので、

特別な練習は不要でした。しかし、常と違う雰囲気がかかったようで、いつもは

どこかに飛んでいってしまう子まで、きちんと歩きました。

2、「旗とりレース」母親に肩車された子が、柱にとりつけてある旗（これは、白

いビニル風呂敷やスーパリーの袋等を切ったマジックで赤丸を塗り、笹竹につけた

もので、母親達の作品です）をとって走るレースですが、準備体操後に、子どもを高い所にあげたことは気分を盛り上げるのによかったと思います。

3 「焼きいもゴロゴロ」できる子は一人

で、介助の必要な子は助け、恐がる子は母親が抱いて横転しました。脳性マヒ等の

肢体不自由児の訓練項目でもあり、又、目が回るせいとか、どの子どもとても喜びました。

4 「毛布ひき」毛布の上に子どもを乗せて、母親が引いていく競技ですが、その

子の状態に合わせて、引つ張るスピードを加減するようにしました。どの種目にも

ほとんど関心を示さなかった癩癩もちの知恵遅れのH君が、これをとても喜んだことが印象的でした。

5 「障害レース」箱抜け、シーツの下く

ぐり、すべり台、平均台、トンネルを次々にこなしていくレースですが、すべり台に上り滑れるようになったばかりのGちゃん、平均台がうまくなくなったJ君、四つん這いになってトンネルを潜れるようになったY君など、日々の遊びの中で成果のみられる遊具を使いました。ですから、中にはどれもできない子もいます。でも、母親に介助されて経験することも大切と考えました。

6 「大玉ころがし」 できる限り子どもに押させていくわけですが、母親の介助のしかたを、随分注意しました。方向をとり、その子に適したスピードを保つようにすればよいのですが、母親達には至難のようでした。事前に力を入れて練習したものの一つです。

## 行事の報告

した。ボール紙と御花紙で作った笠を持ち、円陣をくみ、母子共に一生懸命踊りました。一カ月以上も毎日練習しましたが、完全にできるようになったのは21人中2人のみです。でも部分的にはかなり覚えられたようです。何よりも笠を持つことが嬉しかったようで、運動会后、踊らずに一週間過ぎ、何の気なしにこのレコードをかけた所、過半数の子が笠をとりといった程でした。

8 「玉入れ」 二チームを左右に分けて待機、玉は中央に散らべます。両陣の出発線の内側に箱を置き、「ドン」にて玉を中央で拾い、自分の陣に戻って箱の中に入れるのです。自分で玉を拾い、自分の陣に戻ってきて箱に入れるという簡単なことですが、練習中には愉快なことが何回ありました。まず母親が手を出して

しまうこと。この点に関してはできない子の移動は手伝ってよいが、玉は自分で持たせるように徹底しました。次に、相手方の陣の箱に入れてしまおうこと。これに対しては、母親に陣の所にももらうと間違いなく帰ってくるようです。第三に、玉を両手に抱え込んでしまおうと一つずつ持ってくる子がいて、大笑いになりましたが、この点は何も指導せずに子どもに任せました。

以上、いくつか種目を上げてみました。更にこの子らに合った運動を考え、それを日々の保育の中で実践し、その表れとして運動会に入れていきたいと考えています。又、これまで、肢体不自由の子がいるから等の理由から屋内運動会を企画してきましたが、屋外ではどうかと考えています。